

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	木質構造	担当教員	柴田良一		
学年学科	3年 建築学科	後期	必修	1 単位	
学習・教育目標 (D-2) 100%					
授業の目標と期待される効果： 木材の特性を十分に理解して、耐震性能の診断方法を学習し、安全で合理的な木構造を設計するための知識を習得し、3段階の耐震診断手法を活用する能力を身に付ける。 木構造の概要を理解する 木質構造部材の特性、接合方法を習得する 耐震設計法の概要を理解する 耐震診断手法を習得する チェックシートを作成する 木造耐震補強手法を習得する		成績評価の方法： 定期試験 2 回 (200 点) + 課題提出 2 回 (100 点) 試験と課題を合計し、総得点率で評価する 達成度評価の基準： 講義で説明した耐震診断手法に関して、試験と課題を用いて達成度を把握する。 ①壁量計算の意味と手法を正確に理解する (6 割) ②耐震診断手法の計算手法と評価を正確に理解する (6 割) ③耐震補強の方法を理解する (6 割)			
授業の進め方とアドバイス： 授業は、教科書と板書を中心に行うので、各自学習ノートを充実させること参考となる資料に授業計画を示すので、予習を必ずおこなうこと材料力学と構造力学の知識が必要なので、十分復習しておくこと					
教科書および参考書 日本建築センター 編 ひとりで学べる木造の壁量設計演習帳					
授業の概要と予定：前期					AL のレベル
第 1 回：木構造の概要、講義計画、各種設計法の説明					B
第 2 回：木質構造部材の特性・接合方法と特性					C
第 3 回：木造住宅の基礎					
第 4 回：木造住宅と地震					C
第 5 回：耐震設計法の概要					C
第 6 回：耐震設計法の演習					C
第 7 回：耐震設計法のパソコンを用いた演習					C
第 8 回：中間試験					
第 9 回：耐震診断の概要					
第 10 回：既存戸建住宅の耐震性の評価					C
第 11 回：既存軸組構造住宅の耐震診断					C
第 12 回：既存軸組構造住宅の耐震診断の演習					C
第 13 回：木造住宅設計のためのチェックシート作成					C
第 14 回：木造住宅の補強手法					C
期末試験					
第 15 回：試験解答の解説と評価方法の説明、発展的課題の説明					

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	壁量計算の意味と手法を、正確(8割以上)に理解できる。	壁量計算の意味と手法を、ほぼ正確(6割以上)に理解できる。	壁量計算の意味と手法を、理解できない。
②	耐震診断手法の計算手法と評価を、正確(8割以上)に理解できる。	耐震診断手法の計算手法と評価を、ほぼ正確(6割以上)に理解できる。	耐震診断手法の計算手法と評価を、理解できない。
③	耐震補強の方法を、正確(8割以上)に理解できる。	耐震補強の方法を、ほぼ正確(6割以上)に理解できる。	耐震補強の方法を、理解できない。